



『御坊さん』第16号

平成 24年 8月

発行 亀山本徳寺・本徳寺廟所墓地管理事部

姫路市亀山三二四・☎079123510242

編集 亀山本徳寺・真宗文化研究室

私の来世は……

光照寺住職 若林真人

納骨法要の時、ご家族はお墓の中を覗かれる。きつと自分もやがてこのような姿になるのだろうと、想像されるに違いない。私自身がお骨になる、ここまではイメージができる。しかし、私そのものは何もかも消え果てるのだろうか、それとも何らかの来世があるのだろうか、考える人もおられることだろう。

毎月ご命日にお参りをさせて頂くTさん宅。お参りの後、いつもご夫婦とテーブルを囲んで楽しいひとときをすごさせて頂く。

十月のことでした。奥さんが足の痛みがひどくなったことを話される。外出が困難になって、ご主人がお買い物をされている。

「私もう、長生きはしたくないと思っっているんです」

「どうして、名残惜しいとは思わないんですか？」

「全然。夜寝るとき、もう目が開かなければいいなあと思っただけなんです」……

「私は、人様に迷惑をかけないように、悪いことをしないようにと生きてきましたから、きつと死んだら良い世界に生まれられるでしょうね」

「う……む それはちよつと難しいでしょう」

「あらっ、どうして？ 私、蟻さんを見ても踏まないように、生きものを殺さないようにしてきたんですよ。私は何処に行くんですか」

「たぶんね、地獄でしょう」

「えーっ」

するとそれを聞いておられたご主人が、「お寺さんが言われるんやから間違いない」なんておっしゃる。

「どうして地獄なんです？」

「来月、詳しくお話しましょう」と、一ヶ月待つて頂いた。

十一月、その続きになりました。

「先月ね、「私は迷惑をかけないように、悪いことをしないようにと生きてきた」とおっしゃった。これは大切なことですよね。だけどそれが過ぎると「私は迷惑をかけたことがない、悪いことをしたことがない」となれば、これが一番恐ろしいのです。自分の罪に気づかない人間が一番恐ろしい。

「生きものを殺さないように」とおっしゃったけれど、私の身体を養っているのは、みな命でしょ。野菜でも魚でも命を頂いている。その命を根こそぎ頂いている。自分の手では殺さなくても、人様の手を煩わせて殺させて、それを頂いている。生きていくこと自体が罪から逃れられないことですし、身体だけではありません、心もそうです。貪欲・瞋恚・愚痴の煩惱だらけです。その煩惱によって受けなければならぬ世界を、地獄・餓鬼・畜生の三悪道と申します。どこかに地獄があるのでないんです。

私が日々作り上げてそこに堕ちてゆくしかない。だから「たぶん地獄でしょう」と、言っただけです。」

「逃れられないんですね。」

「そう、逃れられない。そこに願いを起こしてくださったのが阿弥陀様なんです。お仏壇があつて良かったですね。どうぞお仏壇に掌を合わすとき、こうおっしゃってください。「ナンマンダブツ・ナンマンダブツ、阿弥陀さまは今私の身に、入り満ちておつてくださったのですね、ナンマンダブツ・ナンマンダブツ、阿弥陀さまは私の罪のありだけを抱き取ってくださいなのです。ナンマンダブツ・ナンマンダブツ、私には生まれさせて頂くお浄土があつたのですね。」と」

こんなことがあつてから、死ぬ話より生まれたいくお浄土が語れるようなご縁となりました。